

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：
 山梨県富士河口湖町立勝山小学校

活動名： **誰もが居心地の良い学校 ～人間関係形成を意識した学級づくり～**

解決すべき課題：

- ・数年前から崩壊を起こす学級が複数あり、経営が安定しない。
- ・特別な支援を必要とする児童が数多くいるが、それぞれに応じた適切な支援ができていない。
- ・いじめ・不登校など心に課題を抱えている子どもが多いが、その対応に課題がある。
- ・子どもの自己肯定感が低く、子ども同士が信頼感が結ばれていないため、トラブルの発生が多い。
- ・教職員の異動が短期なため、校内研究で取り組んだ成果が持続しなかったり、学校としての伝統が受け継がれなかったりする。
- ・学校近くに保育園・中学校・児童館など関係機関があるが、連携体制がとれていない。

目標・方針：

- ・児童にとって居心地の良い学校・学級づくりに努めることで児童一人一人の意欲を喚起し、自尊感情を高め、自信をもって自分を表現できる児童を育成する。
- ・特別活動の指導方法を基盤として、児童に自己有用感や自己効力感を味わわせる。
- ・集団づくりの基盤として、生活及び学習規律の徹底を図る。
- ・特別な教育的支援の必要な児童のニーズを把握し、専門性の向上をめざしたり関係機関との連携を図ったりすることで特別支援教育の充実に努める。
- ・「全児童を全教職員で指導する」協働指導体制を確立し、児童理解を基盤とした持続的できめ細かな指導を行う。

活動内容：

- 1 伝え合い、認め合い、学び合うことのできる学級づくり
 R1 UD の視点を取り入れた授業づくり。R2 誰もが居心地の良い学校・学級集団を意識した授業づくり。
- 2 特別な支援を必要とする児童についてカルテを作成し、支援会議において対応を検討。
- 3 よりよい勝山っ子を目指して、生活・学習規律について生徒指導部会で再検討し、重点化。
- 4 校内研究で特別活動における人間関係形成能力の育成を重点目標に設定し、各学年で取り組む。
- 5 児童館・保・小・中相互に連携し、児童生徒の生徒指導上の課題研究を行う。

活動の成果：

- ・UD の 3 つの視点を意識することで、子どもたちにとって分かりやすい授業づくりを意識して行うことができた。
- ・学級力アンケートを行い、学級の良さや問題点を児童・教師が共有化し問題解決に活かした。
- ・特別な支援を必要とする児童についてカルテを作成し、それを基に支援会議を行い、関係機関との連携を通してきめ細かな指導を行うことで、自己肯定感を高めることができた。
- ・現状に合った生活・学習規律を策定し、全校共通確認し指導することでルールを守ろうとする児童が増えた。
- ・特別活動において人間関係形成能力に重点を置き、合意形成を基本に集団づくりを進めることができた。
- ・児童館・保・小・中の連携を通して、学力・生活行動の情報交換を行い、一貫して指導していく基礎作りができた。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・学校の重点課題を踏まえ、校内研究・生徒指導部会・特別支援教育部会それぞれが連携し、協働指導体制を組んで課題解決に取り組んだところ。
- ・学級力アンケートを行い、それをレーダーチャート化したことで学級の課題が見える化できたこと。
- ・児童会が提案した「笑顔で One Team」が、児童・教職員に浸透し様々な活動が一体化できたこと。
- ・児童館・保・小・中が連携したことで、児童生徒がより身近な存在になりお互いの交流が深まったこと。

校内研究について

令和元年度
 1 研究主題 『伝え合い、認め合い、共に高め合う児童の育成』
 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを通して～

2 研究目標
 ○ユニバーサルデザインの視点から、すべての児童が「分かる・できる」を実感できる授業づくりについて学び、実践をすることで、伝え合い・認め合い・共に高め合う児童の育成を図る。

令和2年度
 1 研究主題 『誰もが居心地の良い学校・学級づくり』
 ～学級集団づくりを意識した授業づくりを通して～

2 研究目標
 児童一人一人のよさを認め、よりよい人間関係を築くことにより、自分は認められている、友達といることが楽しい、安心してられる、だれもがそう思えるような学校、学級をつくることで、楽しい、確かな学びを創造していく。楽しい学びの創造のためには、学級集団づくりを意識した授業づくりについて学び実践することで、児童一人一人の意欲を喚起し、自尊感情を高め、自信をもって自分が表現できる児童の育成を図る。

3 検証
 ①学級力アンケートを1学期と3学期に行い、変化を見る。
 ②QU を生かした学級づくりの取組について研究を行う。2 回目の調査分析の際には、行った取組の有効性についても検証を行う。

学級力アンケート (5-6年) 結果表

項目	4-3-2-1	4-3-2-1	4-3-2-1
知識や技能	4-3-2-1	4-3-2-1	4-3-2-1
思考力	4-3-2-1	4-3-2-1	4-3-2-1
学び続ける力	4-3-2-1	4-3-2-1	4-3-2-1
友だちと関わる力	4-3-2-1	4-3-2-1	4-3-2-1
学びを伝える力	4-3-2-1	4-3-2-1	4-3-2-1
学びを深める力	4-3-2-1	4-3-2-1	4-3-2-1
学びを共有する力	4-3-2-1	4-3-2-1	4-3-2-1

学級力アンケートを基にした各学級での取組

7月学級力アンケート結果

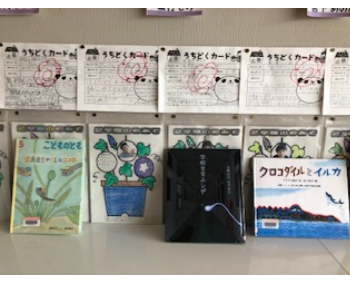


小中合同音楽会の様子

生徒指導部会関係機関との連携 生活・学習規律指導重点

勝山小学校特別支援教育 基本方針

- 1 特別支援学級在籍児童のみならず、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童も対象とする。
- 2 特別支援コーディネーターが中心となって、学校全体で推進していく。
- 3 従来の「校内支援委員会」(主に情報交換、研修の場)に加え、校内委員会を機能させ、主に保護者や教育、福祉、保健、心理、医療等の関係機関(教育委員会、ふじざら支援学校、子育て支援課、SC、SSW等)と定期的に協議を行い、特別な支援を必要としている児童のニーズに応じた適切な指導や必要な支援の方法等を定期的に見直し改善していく。



全校読書の取組の様子